

マスクによって顔や表情が見えないことの影響

新潟県の「1歳児3対1」の研究（2020年※）では、思いもよらなかった言葉かけの減少が見られました。布マスクをしていれば当然、話しづらい。もうひとつ、マスク着用自体が子どもの発達に及ぼす影響もありえます。この件、英語のメディア等で議論されるようになってきましたが、さほど多くありません。なぜかという、欧米諸国はいまだ、未就学児施設や学校を日本のように開けておらず、**大部分の子どもは家庭で過ごしている**からです（この結果、特に米国では主に女性が仕事を辞めざるを得ず、女性の就労状況に長期的な影響を及ぼすと懸念されています…が、これはマスクとは別の話）。

子どもが未就学児施設や学校へ行けないことによる発達上の問題や精神的なダメージは、英語のニュースで毎日のように取り上げられています。でも、マスク着用に関しては、子どもがそのような状況にいるのは短時間であり、多少の工夫と、マスクをしていない状況（家庭内）におけるコミュニケーションで補えるだろうという論調が大部分です。ですが、**日本の保育施設は、世界でも類を見ない（超）長時間です（※※）。その場で、職員が常に顔の下半分を隠していたら？** 懸念を表明している研究者たちの意見は聞くに値するでしょう（各リンク先に原著論文等も記載されています）。結果的に「たいした影響が出なかった」ならよいのです。でも、今、「おとなが皆、顔の下半分を隠していても大丈夫」と断言してしまって、5年後、10年後に影響が見えたら？ ほぼ取り返しのつかないダメージとなります。

マスクを着用していると…

- ・12歳以下の子どもは、「それが誰か」を認識しにくい可能性がある。
- ・感情は顔面の表情筋を用いて表現される。そのため、子どもは感情認識と相互コミュニケーションに問題をきたす可能性がある。
- ・言語発達にも問題があるかもしれない。言語コミュニケーションにおける情報はかなりの部分が視覚に依存しているから。

（Kang Lee 博士、トロント大学応用心理学・人間発達学部教授）

- ・生後6～8か月あたりで、話しかけてくるおとなのどこを子どもが見るかが変化する（変化は生後4か月ぐらいから始まる）。それまではおとなの目を見ていたのが、口を見るようになり、音からだけでなく視覚的にも言語を学ぼうとし始める。

（David Lewkowicz 博士、イェール大学乳幼児研究センター上級研究員）

（以上は、New York Times, 2020/9/14, "Do Masks Impede Children's Development?" Dr. Perri Klass. Dr. Klass は『3000万語の格差』にも登場する小児科医）

<https://www.nytimes.com/2020/09/14/well/family/Masks-child-development.html>

- ・乳児が言葉を学ぶ過程には、口の動きが重要。たとえば「da」と「ba」の違いを、雑音の多い環境で音だけで学ぶのは子どもにとって大変なこと（マスクをしていたら学べない、というわけではない）。
- ・脳波計を用いた研究から、生後6か月には初めて見た顔と名前をつなげて理解できることがわかっている。マスクをした顔ではこれは難しい。
- ・5歳ぐらいまで、子どもは主に会話をしている相手の口に注意を向ける。一方、おとなは相手の目に注意を向ける。感情表現を学び、読み取るために、子どもは相手の表情全体に注意を向けている。

(Lisa Scott 博士、フロリダ大学心理学部教授。透明なマスクを使うよう提言している)

(以上は、Wisconsin Public Radio, 2020/7/2. “Psychologist Calls For Clear Masks For Caregivers To Aid Child Development”)

<https://www.wpr.org/psychologist-calls-clear-masks-caregivers-aid-child-development>

- ・有名な「視覚的断崖 visual cliff」の実験から、生後3か月程度で乳児は奥行き知覚ができ、その後すぐ、「落ちる」という知覚に恐怖感が伴うこともわかっている。この「視覚的断崖」の実験に「社会的参照 social reference」を組み合わせ、おとなの表情から子どもが情報を読み取る能力を調べた実験によると…。母親が玩具を持って視覚的断崖の向こう側に立ち、「笑っていると」子ども（実験では12か月児）は断崖の上を渡り、母親が「怖がった表情をしていると」子どもは断崖を渡らない。つまり、この時期の子どもも、すでに身近なおとなの表情から情報を読み取っている。

(以上は、Brookings Institution, 2020/4/21, “Are you happy or sad? How wearing face masks can impact children’s ability to read emotions”で参照されている論文。ブルッキングス研究所は世界的に権威のある非営利の政策提言団体)

<https://www.brookings.edu/blog/education-plus-development/2020/04/21/are-you-happy-or-sad-how-wearing-face-masks-can-impact-childrens-ability-to-read-emotions/>

※も※※も、 https://kodomoinfo.org/others_main.html

※※は上のページ：日本の「標準時間11時間利用」が世界的に見ていかに突出しているか

https://kodomoinfo.org/OECD_EU_use_hours.pdf

マスク着用の影響については実験等も行われている可能性が大きいいため、新しい論文等が掲載された場合には加筆します。Facebook ページで最新情報をご覧ください。

<https://www.facebook.com/daycaresafety/>